

災害教訓にボランティア

佐野高生が自主的組織



初めての定例会でSVNの概要を説明する発起人の猪瀬さん(右)

【佐野】高校生の自主的な災害ボランティア活動を促すネットワークが22日、佐野高で発足した。ボランティアを必要とする人と活動を希望する生徒を結び付ける。生徒会役員が事務局を務め、代表の2年篠原彩絢さん(17)は「ゆくゆくは市全体の高校にネットワークが広がり、防災意識の高まりにつながれば」と意気込んでいる。(柴田正人)

市内他校に 拡大も視野

ネットワークの名称は「佐野市内高校生災害復興ボランティアネットワーク(SVN)」。災害発生時にはボランティアを募集する市社会福祉協議会と同校登録者の間に入り、あつせんや調整を行う。防災に関する知識を深めるため、外部のボランティア団体と連携して勉強会も開催する。この日は同校生徒18人が登録した。

発起人となった前生徒会長(いのせはると)の3年猪瀬遥大さん(18)は「2019年の台風19号で市内が被災した際、地元の高校生としてもつとアクションを起こすべきだと痛感した」と話す。

一方で「何をしたらいいのかわからなかった」という生徒も少なくなかったといい、昨夏の生徒会長選挙にはボランティア活動に参加しやすい体制づくりを公約に掲げ立候補した。

今年7月、災害ボランティア活動に関する基本理念を定めた「市災害ボランティア活動推進条例」が施行されたことも、ネットワークづくりの追い風となったという。

22日には初めての定例会が開かれ、市市民活動促進課の担当者が同条例の趣旨を説明。「できることをできる時に、できる範囲で行う」ということを忘れずに」とアドバイスした。